

議事要旨

1、キトラ古墳周辺地区の位置付けについて

- 飛鳥地方一帯の歴史観光ニーズを把握した上で、キトラ古墳周辺地区の位置付けを明確にする必要がある。
- 他の地区との分担の明確化が必要。
- 国営公園内の他の4地区でカバーできていないことをキトラで全部引受けるのではなく、キトラ古墳に特化した部分のみを引受けるほうがいいのではないか。
- 今後第6地区以降の国営公園ができる可能性もあり、飛鳥の将来像もふまえてキトラ周辺地区を計画していく必要がある。

2、体験学習活動のテーマ設定と施設について

- 全体的に盛り込みすぎた感がある。
- 施設の管理・運営計画をもとにテーマ設定や施設整備が必要。
- 何かひとつ重点的な施設をつくる方法も考えられる。
- 四神思想や道教については解釈が難しく、また特に子供への影響などを考えると、展示の内容・手法に関しては、慎重に検討する必要がある。
- 展示内容については正確な史実に基づくことが重要。
- 展示内容について、正確な史実に基づくことはもちろんだが、飛鳥時代へのロマンを広げることも大切である。
- 飛鳥が往時の国際交流の舞台を象徴しているとの考えると、キトラ古墳周辺地区は中国・韓国との国際交流の場となる可能性がある。
- 古代天文学、世界の古墳壁画などが、キトラ古墳周辺地区に特化したテーマとなりうる。
- 飛鳥時代の朝廷は、往時の中国・韓国の最先端の情報をもっとも価値のあるものだったと考えられるため、そうした文化もテーマとして取り上げてみてはどうか。
- 当時の景観・植生の復元などについても検討すべき。

3、周辺地域との関係性について

- 檜隈の里と檜隈寺の遺跡との関係性を示した上で檜隈の里の在り方を検討すべき。
- 明日香観光で現在検討中のシャトルバス、周遊バス、レンタサイクルなど、総合的な移動システムの中でキトラ地区を位置付けるべき。
- キトラ古墳周辺地区内の施設が、明日香村の既存の施設や今後計画される施設と競合する可能性があるのではないか。
- 明日香村における滞在時間を勘案すると、キトラ周辺地区と飛鳥全体との機能の役割分担や、バランスを考えたプログラムが必要である。
- 飛鳥の田園景観を維持するために、農業支援や農産物の加工販売の展開など、明日香村内の農業従事者の支援策を盛り込むことも必要。
- 来園者に明日香村内を周ってもらい、古代の農作物の栽培風景などを見てもらいたい。
- 長期滞在を目標とすると、宿泊施設が必要になってくる。明日香村内での充実を図るだけでなく、檀原や桜井の宿泊施設と歴史観光をどう結びつけるかが課題となる。

4、公園の施設計画について

●駐車場について

- 駐車場必要量と整備量については、交通システムなども勘案しながら検討すべき。
- 駐車場の規模・位置について、シャトルバスや観光バスの利用も見こんだ明日香村全体の動線計画との整合が求められる。
- 北側駐車場は村営公園との関係でこの場所が望ましい。

●動線計画について

- エントランスや古墳などの拠点と駐車場などの立地を勘案しながら、拠点へのスムーズな動線計画を検討する必要がある。

5、古墳本体の保存について

- 古墳本体についてファイバースコープなどで中を見られるような施設ができれば、計画している公園内の施設との競合が生じるのではないか。
- 古墳の保存に関しては、内部の状態から判断してまだ白紙の状態である。